



高経大を卒業して

◇ **今回は、長谷川あかりさん（高崎経済大学経済学部）のレポートです！**

こんにちは。私は2013年3月に関高校を卒業しました長谷川あかりと申します。現在は社会人2年目で銀行に勤務しています。私の学生生活について少し書きたいと思います。

高校時代は吹奏楽部に在籍し、部活に没頭していました。勉強はずっとさぼり気味で、数学とかはいつも赤点ぎりぎり、よく再試を受けていました。最後の文化祭までしっかり部活に参加し、受験勉強を本気で始めたのは3年生の9月でした。そこから毎日12時に寝て4時に起きるという4時間睡眠生活で必死に勉強しました。センター試験を終え、案の定目指していた大学のボーダーラインに到底及びびませんでした。当時の担任の先生には「どうしても国公立にいきたい」と言った覚えがあります。そんな私に先生がある大学を紹介してくださいました。「遠いから進学はしないと思うけど、中期日程があるから受験だけしてみては？」

前置きが長くなりましたが、そこが私の卒業した高崎経済大学（以下高経大）です。進学する大学は、消極的な理由で決めたかもしれません。ただ、入学してみて分かったことは、わたしと同じ思いで高経大に入学した同期がたくさんいるということです。高経大の経済学部は、中期日程で定員の半分をとるというちょっと珍しい受験日程だったため、全国47都道府県から学生が集まっていました。

でも、私の大学4年間は間違いなくとても充実していました。大学はとても自由で、自分のやりたいことを自由に選ぶことができます。その中で、私のキャンパスライフの中で特に影響を受けた活動について紹介したいと思います。

部活

わたしは大学でも吹奏楽部に所属していました。私の所属した吹奏楽部は「応援団附属」吹奏楽部だったので、体育会のイベントで応援団の伴奏をしたり、箱根駅伝の予選会の応援に行ったりもしていました。もちろん、普段は地域の施設やイベントでの演奏をしたり、コンクールに出たり、アンサンブルコンテストに出たり、学祭で演奏したり焼きそばを売ったり、定期演奏会を開催したり、など普通の吹奏楽部の活動も行っていました。そんな吹奏楽部の活動を通して、学んだことがあります。

それは、周りの人に頼ることです。先ほども申しましたが、大学



は自由です。一人で決めなければならないことや一人でやるのがたくさんあると思います。わたしは定期演奏会でパンフレットの作成と協賛金集めに関しての責任者をしていました。すごく頑張れば一人で全てのことやり切れたかもしれませんが、実際私は全て一人でやろうとしていました。不器用で人に頼ることが苦手でしたし、人に頭下げるよりは自分でやったほうが楽と思っていました。しかし、演奏会に向けての練習に加え深夜まで会議をしたり、一緒に活動したりする中で、「一人で全てやってしまうことがすごいことではない」と気づかされました。大きな組織で活動するには、いかに「人を動かす」かが重要だと思います。確かに一人でやってしまうほうが楽かもしれませんが、人に頼ることでうまく回ることもあると思います。私もそう気づいてから周りの同期に思い切って仕事をお願いしてみました。みんなは嫌な顔せず引き受けてくれましたし、私もそれですごく楽になりました。そうすることで自分が本当にやるべきことに取り組むことができましたし、円滑に準備を進めることができました。この経験は、社会でも役に立つことだと思っています。

ゼミ

私は、国際政治経済学について研究するゼミに所属していました。大学には「ガチゼミ」と呼ばれる部類のゼミと、「ゆるゼミ」という感じのゼミがありましたが、私はいわゆる「ガチゼミ」に所属し、普段は著書の輪読を行っていました。その他にも、日経新聞社主催の円ダービーの応募のために為替について勉強したり、東京大学の学生とディベートとしたり、中国経済について語り合ったり、時には毎日ゼミ生と過ごしていました。なかでも特に印象に残っていることは「高大コラボゼミ」です。

高経大には附属高校があり、関高校と同様 SGH 指定校でした。その活動の一環で、私たちのゼミとの「高大コラボゼミ」がありました。「日本企業の海外戦略」というテーマで研究を行い、高校生のチームにゼミ生が付き、プレゼンまでのサポートをしました。

私のチームはトヨタ自動車株式会社の研究を行い、実際に本社訪問をして社員の方に質問をすることもできました。あくまで高校生の「サポート」という立場で、自分たちも企業研究、業界研究を進めるなかでいかに高校生にも興味をもってもらえるか、疑問を引き出すことができるかが大きな課題となっていました。はじめは私たちも知らないことばかりで手探りで進めていましたが、なんとか本社訪問までには高校生と一緒に研究を詰めることができました。成果発表当日まで高校にも足を運んで一緒に資料の作成をしたり、プレゼンのアドバイスをしたり、成果発表当日まで心配でしたが、立派に発表をしてくれました。初めは消極的だった高校生たちの成長した姿を見て、私たちも何とも言えない達成感をかみしめることができました。

まとめ

ここにはこれだけしか書けませんが、大学生活は自由で楽しいです。私はゼミと部活の両立で大変だった時期もありましたが、それぞれの仲間の理解もあり、優先順位を決めてどちらも充実させることができました。いろいろな人に出会い、大学外にも私を支えてくださる人がたくさんできました。もちろんバイトも飲み会もたくさんしましたし、国内旅行も海外旅行も、たくさん遊びました。むしろ遊んでばかりだったかもしれません。実際、遊んでばかりでした。

最後に、大切なのはどこの大学へ行くかではなく、大学で何をするかだと思います。これを読んでいる人の中で、志望大学に行けずに落ち込んでいる方がいるかもしれません。先述したように私も含め大

学にはそういう学生が多くいましたが、入学してすぐある教授に「誤差みたいな偏差値で落ち込んでくよくよしている暇があったらここで何ができるか考えろ。この大学でもできることはたくさんある」、そういわれて私ははっとしました（のちに私はその教授のゼミに入りました）。

それからわたしは大学で開催されているセミナーに参加したり、経済学の実験の手伝いをしたり、いろいろなことに首を突っ込んでみることにしました。そうすることでたくさんの人に出会えることができましたし、いろいろなことが経験できました。もし、落ちこんでいる方がいたら、前を向いて新しい一歩を踏み出してみてもいいのではないでしょうか。

お金はないけれど、大学ではやろうと思えば何でもできます。どんな町でも住めば都です。卒業するころにはそんなこと忘れていきます。拙い文章ですが、これを読んでくださった方が、前を向いて、一歩を踏み出す手助けになれば幸いです。

